

ゴマダラカミキリ

広葉樹の幹の根元付近に直径1~2cmほどの丸い穴が開き、そこから木くずがでる。夏にカミキリムシ（成虫）がみられる。体長30mm前後。体は黒く多数の白点がある。成虫は枝先の樹皮を食べる。

外国産の樹木に被害が多い傾向がある。森林のシラカンバに多発した例もある。リンゴやナシなどの果樹でも害虫とされる。被害木は樹勢が衰え、枯れることがある。また、成虫の食害で枝先が枯れることがある。



1. 被害孔，直径12~15mm. 2001/8/23.

美唄市，庭のシラカンバ.



2. 成虫，27~35mm. 2001/8/23.

1の被害木の地際.

【学名】 *Anoplophora malasiaca*

【分類】 コウチュウ目 (Coleoptera) , カミキリムシ科 (Cerambycidae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州，琉球；朝鮮半島，中国，台湾，マレーシア.

【生態】

エゴノキ，カエデ，カンバ，ハンノキ，プラタナス，ポプラ，ヤシャブシ，ヤナギ，リンゴ，ナシなど数多くの広葉樹につく。成虫は6~8月に出現。雌成虫は幹の地際近くの樹皮にかみ傷を付け，そこに1個ずつ卵を産む。幼虫は木くずを排出しながら材内を食い荒らす。成虫は葉や小枝の樹皮を食べる。

【被害と防除】

道内ではポプラ，ハンノキ類，シラカンバなどで被害が多いようである。広葉樹の街路樹などにも発生するが，被害実態はよくわかっていない。被害は年々蓄積されていくので，樹木が高齢化した場合に問題になる可能性がある。また，食害部位は腐朽し，ウスバカミキリなど他の害虫の侵入口になる。

被害が目立つ場合は6~8月頃に被害木を見回り，成虫を捕まえる。農薬による防除が必要な場合は6月にMEP乳剤を幹の根元に散布する。農薬は取扱説明書に従って使用し，散布の際には通行人や近くの住民らに十分配慮すること。

【文献】

1986. 山口昭, 大竹昭郎, 編集. 果樹の病害虫, 診断と防除. 全国農村教育協会, 東京. (形態, 生態, 被害, 防除)
1994. 遠田暢男. ゴマダラカミキリ. 小林富士雄, 竹谷昭彦編集. 森林昆虫, 総論・各論: 221-222. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ゴマダラカミキリ kamikiri/gomadara/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/16.

higai1.jpg, seichu1.jpg

「写真1～2」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001.

seichu2.jpg

佐々木満, 森林整備課, 199?.